

令和3年度の事業報告書

令和3(2021)年4月1日から令和4(2022)年3月31日まで

特定非営利活動法人 楽舎

1 事業の概要と成果

過疎高齢化の著しい山里とまちなかをむすぶ。そのために、山里の人と暮らしの魅力を伝える。

しかし、コロナ禍のなか、ほとんどの事業が行えず、ZOOMで語り合いの場をつくっていくことになった。

2 事業の実施に関する事項

事業名(定款記載)	具体的な事業内容	実施日時/場所/参加者	事業費(千円)
①山里への定住を促進する事業	空き家を見つけ、田舎暮らしをしたい人に空家を紹介。	移住相談7件、空き家案内5人。愛犬がケガをさせて賠償のために土地と家を売り、暮らすところがないという夫婦、田舎暮らしをしたいという家族を山里の移住につなげた。また、インド帰りの夫婦に一時的に家を貸した。林業をしたいという防衛省の役人に林業家をつなげた。	50
②山里暮らしの魅力を発信する事業	日常の山里暮らしをFacebookとホームページで発信する。山里の匠たちの取材と紹介。	「山里で元気に暮らしている90代」というテーマで、10名の90代を取材。「すばる舎」から、2022年の10月に刊行につなげる。 くま水車の里で、「布絵展と手漉き和紙の二人展」とトークイベントを開催。参加者100名：杉浦医療財団助成事業	500
③山里で仕事をつくる事業	理事長が地域密着型通所介護施設を運営しながら、山里の見守り、介護予防についてのネットワークをつくっていく。	地域密着型通所介護施設の経営をしながら、間伐材や竹炭などの製品の模索。	
④移住者と地域住民の交流をはかる事業	②③の事業を進める中で、交流が図られていく。コロナのために活発には行えず。	間伐材を活用して、多目的な交流スペースづくり。合計30畳の空間を製作：浜松市いきいきの森を育もう浜松市民活動補助交付事業。	500
⑤地域の人々の寄り合いの場をつくる事業	③の事業を進める中で、交流が図られていくコロナのために活発には行えず。		
⑥その他、目的を達成するために必要な事業	見守り、看とり、送りについての語り合い。	「それぞれの見守り・看とり・平穏死」のカタリバをZOOMにて開催：在宅医療勇美記念財団助成事業	